新潟県の地震概況　令和８年（2026年）９月

令和８年10月22日
新潟地方気象台

【９月の地震活動概況】

この期間、県内の震度観測点で震度１以上を観測した地震は３回（最大は震度１）でした。このうち、新潟県とその周辺（図１）で発生した地震で、県内で震度１以上を観測した地震は１回でした。（「期間内に発生した主な地震」を参照）

【９月に新潟県周辺で発生した地震】

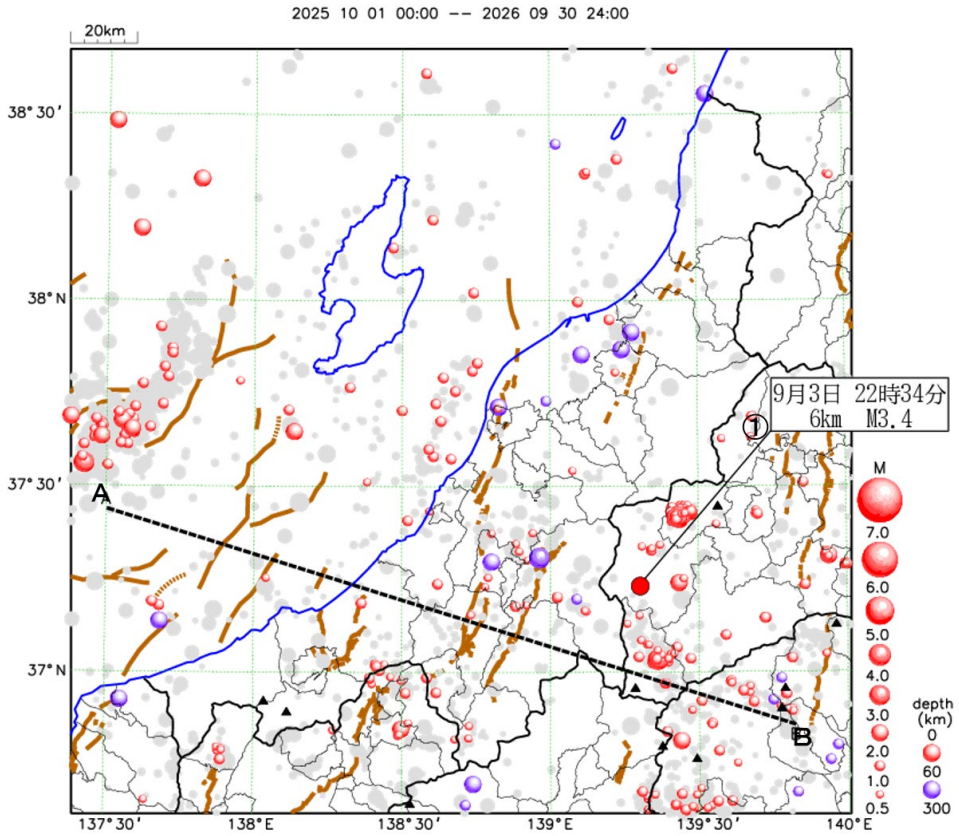


図１　震央分布図（深さ0～300km、M0.5以上）

※過去１年間の地震を示す。令和８年９月に発生した地震を赤又は青、それ以前はグレーで示す。茶色線は地震調査研究推進本部で長期評価されている活断層を示す。図中の▲は活火山を示す。

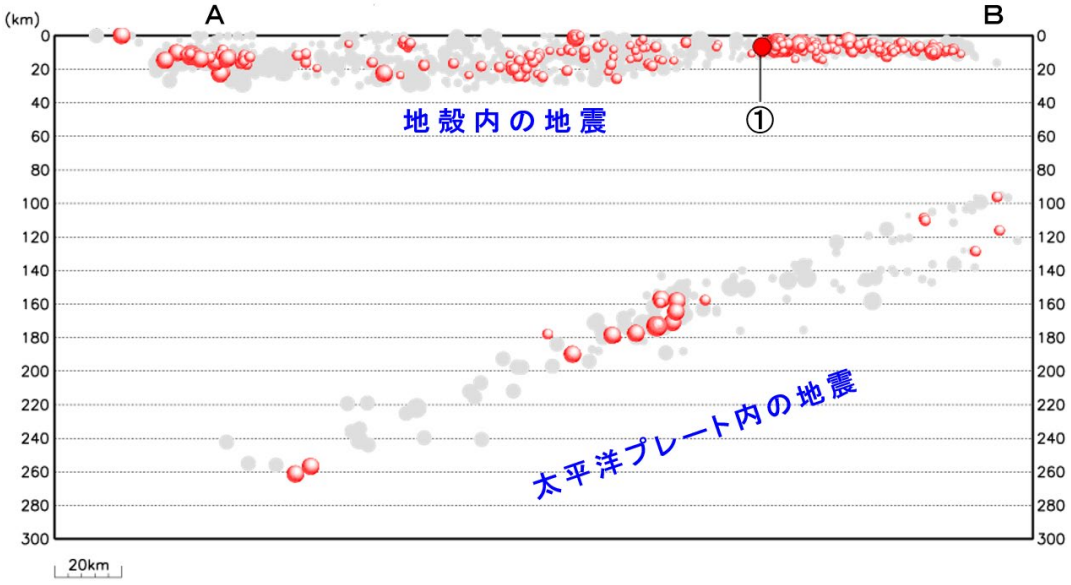


図２　断面図（図１の領域内をA-B面で投影：縦軸の深さは1/2の縮尺）

【期間内に発生した主な地震】

①　３日 22 時 34 分　福島県会津の地震（深さ６km、M3.4）により、福島県で震度２を観測したほか、福島県および新潟県で震度１を観測しました。新潟県では三条市および魚沼市で震度１を観測しました。この地震は地殻内で発生しました。

②　17 日 00 時 07 分　茨城県南部の地震（深さ 67km、M4.9）により、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県および神奈川県で震度３を観測したほか、東北地方から関東甲信地方、新潟県および静岡県にかけて震度２～１を観測しました。新潟県では十日町市、湯沢町および南魚沼市で震度１を観測しました。この地震は太平洋プレート内で発生しました。

③　29 日 04 時 45 分　茨城県南部の地震（深さ 46km、M4.9）により、茨城県および埼玉県で震度４を観測したほか、東北地方から関東甲信地方、新潟県および静岡県にかけて震度３～１を観測しました。新潟県では南魚沼市で震度１を観測しました。この地震はフィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生しました。

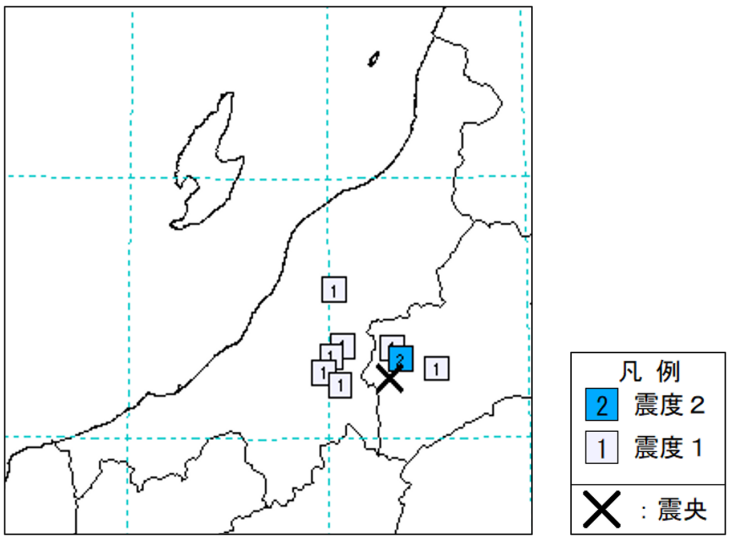
【新潟県内で震度１以上を観測した地震】

期間　2026 年９月１日～2026 年９月 30 日

地震の発生日時（年/月/日/時:分）　震央地名　緯度　経度　深さ　規模　全国最大震度
各地の震度　＊は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点
①　2026年09月03日22時34分　福島県会津　37°13.8’N　139°18.2’E　6km　M3.4　2 震度１：三条市荻堀＊,魚沼市下折立,魚沼市今泉＊,魚沼市須原＊,魚沼市穴沢＊
②　2026年09月17日00時07分　茨城県南部　36°04.5’N　140°08.9’E　67km　M4.9　3 震度１：十日町市上山＊,湯沢町神立＊,南魚沼市六日町,南魚沼市塩沢小学校＊,南魚沼市塩沢庁舎＊
③　2026年09月29日04時45分　茨城県南部　36°03.2’N　139°56.1’E　46km　M4.9　4 震度１：南魚沼市六日町

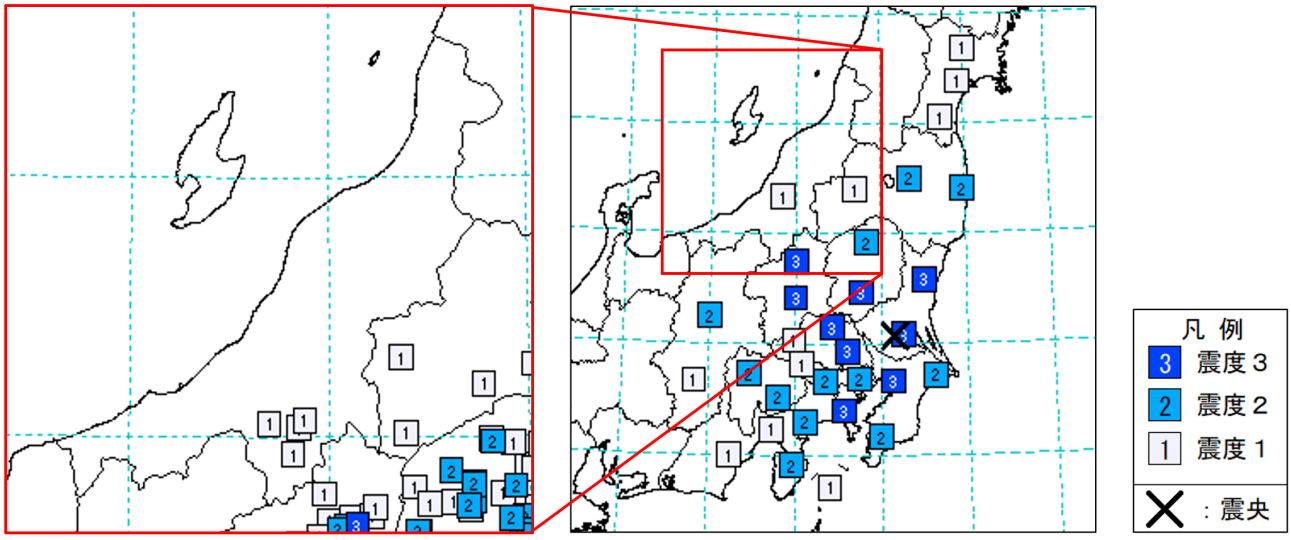
【震度分布図】

①　3 日 22 時 34 分　福島県会津の地震



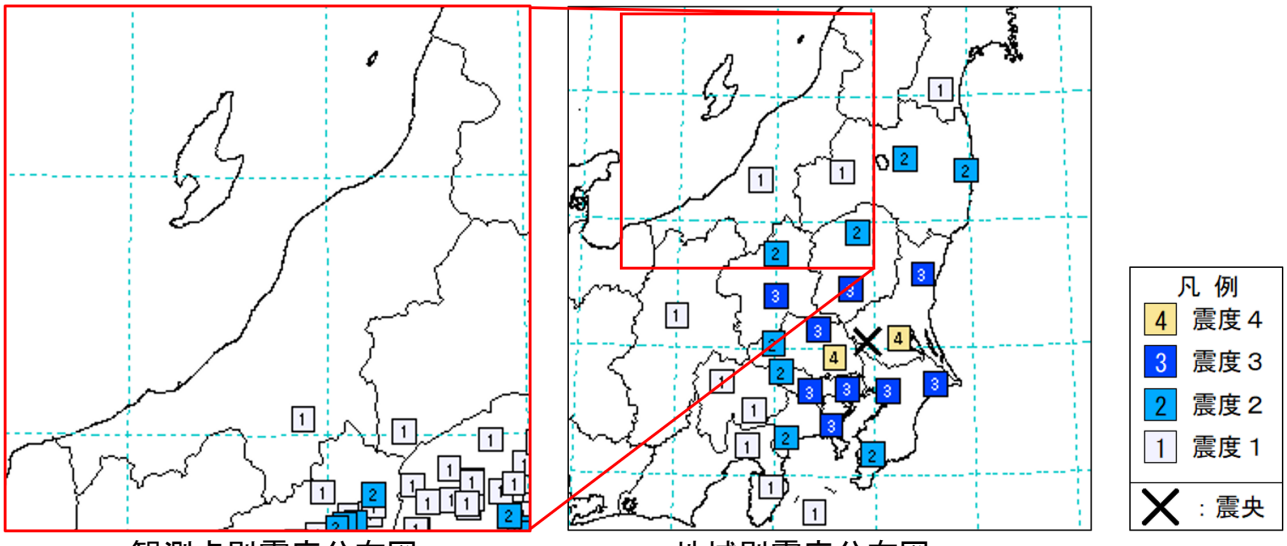
観測点別震度分布図

②　17 日 00 時 07 分　茨城県南部の地震



観測点別震度分布図　　地域別震度分布図

③　29 日 04 時 45 分　茨城県南部の地震



観測点別震度分布図　　地域別震度分布図

【新潟県内で最大震度１以上を観測した月別・震度別地震回数表】

年	2025 年			2026 年									
月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
震度 1	0	1	6	5	2	1	2	0	1	0	2	3	**23**
震度 2	3	4	3	0	0	2	5	0	3	3	0	0	**23**
震度 3	0	0	1	0	0	0	1	1	3	0	1	0	**7**
震度 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
合計	**3**	**5**	**10**	**5**	**2**	**3**	**8**	**1**	**7**	**3**	**3**	**3**	**53**

【防災教育に使える副教材・副読本ポータル】

気象庁では防災教育にご利用いただけるeラーニング教材を公開しました。自治体職員向けの研修や、自治会の研修等にぜひご活用ください。ワークシートも附属しています。

・eラーニング「地震・津波から命を守る」

地震・津波から命を守るための基本的な知識と取るべき行動を学びます。

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/jma-svd-el/jishin/jishin-tsunami.html

・eラーニング「火山災害から命を守る」

火山災害から命を守るための基本的な知識と取るべき行動を学びます。

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/jma-svd-el/kazan/kazan.html

※この他にも「防災教育に使える副教材・副読本ポータル」サイトで有効な教材を各種公開しています。

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/fukukyouzai/index.html

注）利用にあたって

・資料は速報であり後日の調査により変更されることがあります。

・気象庁では地震の震源、マグニチュード等を算出するにあたり、国立大学法人などの関係機関から地震観測データの提供を受け(注１)、文部科学省と協力して処理を行っています。
また、震度の情報は、地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供された観測データを含めて発表しています。

（注１）本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025 年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

・この地震概況は新潟地方気象台ホームページの地震解説資料・地震概況のページに掲載しています。
https://www.data.jma.go.jp/niigata/jishin/jishin_kaisetu_index.html

・資料についての問い合わせ先：新潟地方気象台電話：025-281-5872

【地震・津波一口メモ】

「地震」を意味した古語「なゐ」
鯰絵（なまずえ）に込められた人々の想い

１．「なゐ」は「地震」という意味

古文書を読んでいると、現在の「地震（じしん）」ではなく、「なゐ（ない）」という言葉に出会うことがあります。「なゐ」は古くから使われてきた日本語で、もともとは大地や地盤を意味する言葉だったと考えられています。そのため、古くは「なゐふる（地が震える）」「なゐゆる（地が揺れる）」という形で用いられ、やがて「なゐ」だけで地震そのものを表すようになりました。

古い記録には、「大なゐふる」や、「なゐの神を祭る」といった表現が見られ、昔の人々が地震を大地そのものの異変として捉えていたことがうかがえます。歴史地震を調べる際には、この「なゐ」を見落とさないようにしています。

現在でも日本各地の方言には、「ない」「なえ」「なや」など、「なゐ」に由来すると考えられる地震の呼び名が残っています。古い言葉の痕跡は、意外にも私たちの身近なところにあるのかもしれません。

２．江戸鯰と信州鯰

昔の地震にまつわる絵図を紹介します。1855 年の安政江戸地震の発生した「江戸」と、1847 年の善光寺地震の発生した「信州」の 2 匹の大鯰が描かれている「江戸鯰と信州鯰」についてです。

江戸時代、地中にいる鯰が地震を引き起こすという話がありました。この絵図には、被災した人々が鯰をこらしめる一方、復興で仕事が増えて儲かった職人たちが人々をなだめる様子が描かれています。このように地震をめぐる人々の立場の違いが見て取れ、この騒動に鹿島大明神が駆けつけている様子が描かれています。

もし、絵図にご興味がありましたら、ぜひ東京大学地震研究所図書館のホームページを訪れてみてください。

https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/tosho/panko/panko2024/index.html

参考資料
・中村幸彦ほか校注『方丈記・徒然草』新潮日本古典集成，新潮社，1977.
・坂本太郎・家永三郎・井上光貞・大野晋校注『日本書紀（下）』日本古典文学大系 68，岩波書店，1965.
・佐竹昭広ほか校注『新編日本古典文学全集 日本書紀②』小学館，1998.
『名語記』巻四（日本思想大系版等）
・東京大学総合図書館・石本コレクション［江戸鯰と信州鯰］（1855）
・東京大学地震研究所図書室，
https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/tosho/panko/panko2024/index.html